

はすまな

小四 石井庸平



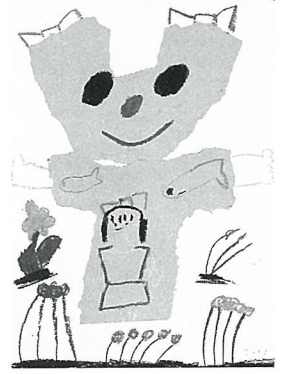
4年1組 石井 庸平くん

※「県民の日」書道展に出そうと、頑張って書きました。



1年1組 越川 香利ちゃん

※わたしは、大きなうさぎさんになつてこされていきます。とても気持ちがいいです。



『ちぎつたかみから どうぶつさんが…』

あつまれ みんなの力作



2年1組 宮内 容美くん

※「ウモロシ」を、口いっぱいほおばっているところですよ。



『とうもろこしをたべるほく』

花

鶴澤 徹



5年1組 鶴澤 徹くん

※はらいや曲がり気をつけ書きました。曲がりの部分が、難しくても書き直しました。

夢

小六 石井敬子



6年2組 石井 敬子さん

※私の夢は、まだはつきりしていませんがこれからゆつくり決めたいと思います。



3年1組 林 宙子さん

※みんなの心づかいで、きれいな町づくりを願って描いた作品です。



『明るい町づくり』



夜蛙や言ひそびれるる妻の顔

秋山 一泉 (栢田)

黙したまま対峙している夫婦の微妙な心理の綾が、夜の蛙によって暗示を深める。

いつも茶の沸き居るくらし藤の花

越川せつ子 (篠本三区)

長かった職場を退職された作者には日々の起き臥しが何より得難いものに見える。

藤房に頸つき出して老夫婦

椎名 静子 (二又)

ユーモラスでマンガチックとも見える作品だが老人に注がれる作者の眼は暖かい。

山のもの野のもの作る春厨

鈴木とし子 (宝米)

春は筍・芹・蕨など新鮮な惣菜に事かかない。夕餉の準備に急かれるも心は弾む。

ほのかなる色のほぐるる若楓

伊藤 幸枝 (尾垂六区)

あえかなる淡紅色を帯びた葉芽が若葉へと変り行く過程をよく観察している。

評者吟

短評 椎名しげる

老春の心を藤に灯したり